

秋田県景気動向指数

第16循環景気基準日付(谷)の暫定設定について

★秋田県の景気基準日付（第16循環・暫定） 景気の谷 令和2年8月

1 景気基準日付について

景気基準日付とは、景気の拡張局面と後退局面を分ける景気転換点（山・谷）の日付のことで、景気循環の局面判断等を行う際に、重要な意味合いを持っています。

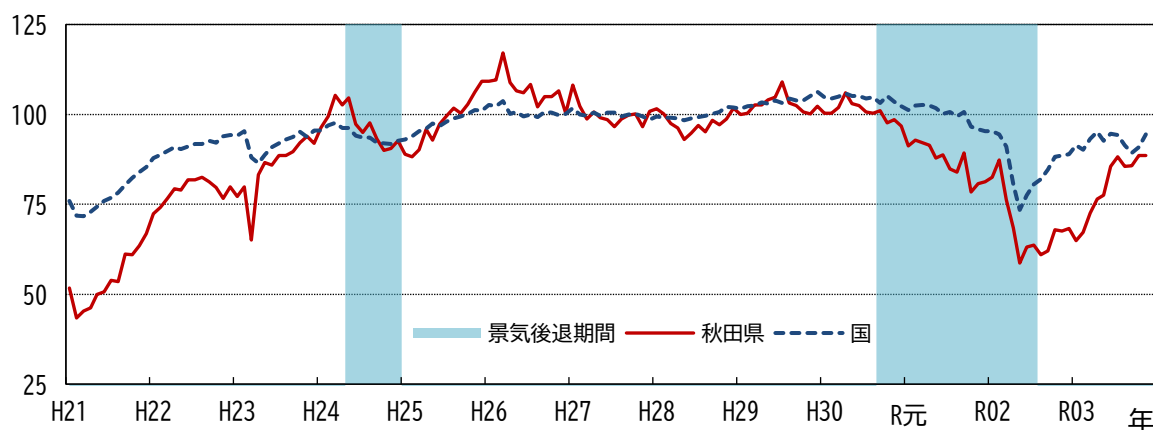
今般、国の第16循環の谷に相当する秋田県の景気基準日付について、令和2年8月に暫定設定しました。国と比較すると3か月遅くなり、景気の山から谷への景気後退局面は23か月（暫定）、谷から谷までの全循環は91か月となりました（表1）。全循環は、秋田県が景気基準日付を設定している昭和45年以降、最も長いものとなりました。

なお、今回設定した景気基準日付とC I一致指数の動きをグラフで比較すると、図1のようになります。

表1 第16循環（暫定）の国との比較

	第15循環	第16循環（暫定）		期間(第16循環・暫定)		
	谷	山	谷	拡張	後退	全循環
秋田県	H25年1月	H30年9月	R2年8月	68か月	23か月	91か月
国	H24年11月	H30年10月	R2年5月	71か月	19か月	90か月
差	+2	-1	+3	-3	+4	+1

図1 C I（コンポジット・インデックス）一致指数の動き



※C I：主として景気変動の大きさやテンポ(量感)を測定するための指標で、景気に対し先行して動く先行指数、ほぼ一致して動く一致指数、遅れて動く遅行指数の3指数があります。

※シャドー箇所は秋田県の景気後退局面です。

2 景気基準日付の設定方法について

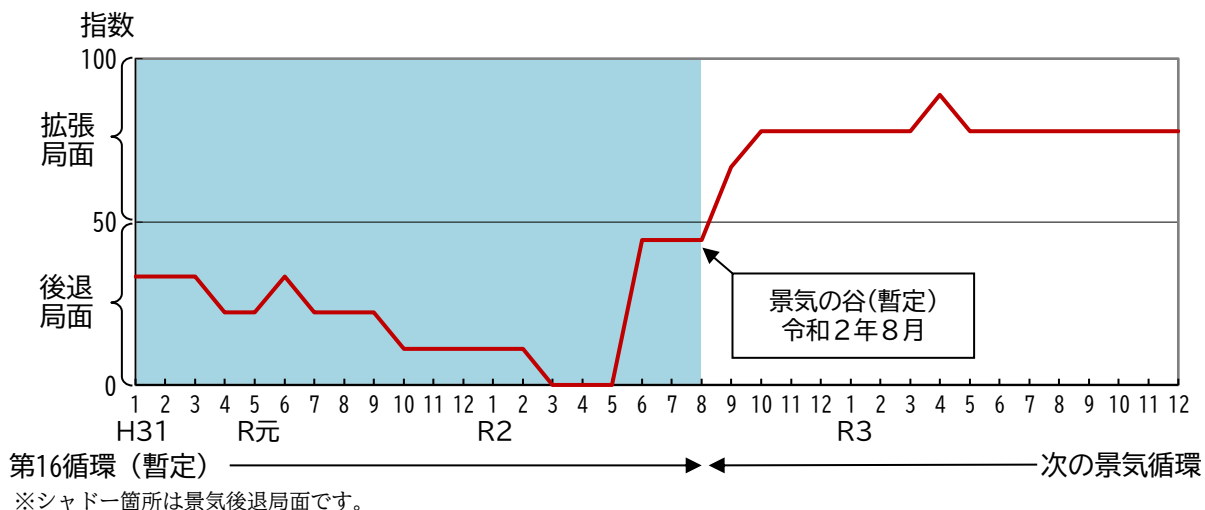
C I一致指数の計算に用いる9系列について、指標ごとに循環変動の転換点（山・谷）を設定し、山の翌月から谷までを全てマイナスに、谷の翌月から山までを全てプラスとします。次に、各月ごとにヒストリカルD I（拡張（プラス）系列数を採用系列数で除した値）を作成します（表2）。

ヒストリカルD Iが50%を上方から下降へ切る直前の月を景気の山、下方から上方へ切る直前の月を景気の谷と設定します。

表2 ヒストリカルD I

系列名	令和2年(2020年)											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1 有効求人倍率	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	+	+
2 雇用保険受給者実人員	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 鉱工業生産指数	+	+	-	-	-	-	-	-	+	+	+	+
4 生産財生産指数	-	-	-	-	-	-	-	-	+	+	+	+
5 百貨店・スーパー販売額	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6 新車販売台数	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+
7 投資財生産指数	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+
8 建築着工床面積(非居住用)	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+
9 秋田空港利用者数	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+
拡張系列数 a	1	1	0	0	0	4	4	4	6	7	7	7
採用系列数 b	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
ヒストリカルD I a/b	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	44.4	44.4	44.4	66.7	77.8	77.8	77.8

図2 ヒストリカルD Iのグラフ



問い合わせ先

〒010-8570
 秋田市山王4丁目1-1
 秋田県企画振興部 調査統計課 調整・解析班
 電話 018-860-1254
 FAX 018-860-1252
 E-mail kaiseki@mail2.pref.akita.jp

美の国あきたネット内で「秋田県景気動向指数」等の統計資料をご覧になれます。
<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/genre/tokei/>